



ジュエリーと氷上、二つの舞台で 輝きを追い求め一流を目指す 齋藤 輝さん

午前5時30分。10kgもの防具を身にまとった選手たちが次々と集まり、静まり返ったスケートリンクに鋭いブレードの音が響き渡ります。氷上に立つのは、アイスホッケーのプロチーム「名古屋オルクス」の選手たち。その中で背番号「9」を背負うのが、齋藤輝さん（24歳）です。アイスホッケー選手の多くは、企業とアスリート契約を結び、競技と仕事を両立しています。

チーム練習は始業前の早朝。限られた時間の中で、リーグ優勝を目指して日々汗を流します。防具とマスクを外し、ネクタイを締めて向かったのは、JR共和駅前の老舗宝石店「HASSIN」。アスリートの姿から一転、上質な商品が並ぶ空間で、穏やかな表情でお客さまを迎えます。

HASSINとの出会いは、チームの監督の紹介でした。人生の節目を彩る宝飾品などを扱い、多くの顧客を抱える同店。日本体育大学でキャプテンを務めた経験や競技に向き合う真摯な姿勢、誠実な人柄が評価され、同店では初の新卒でのアスリート契約が実現します。一人の販売員が複数のブランドを取り扱うため、ジュエリーのプロフェッショナルであることが求められます。専門知識も接

客経験も無い状態で飛び込んだ宝飾業界。先輩の接客を間近で学び、商品についての知識を深めてきました。相手の服装や会話から好みや価値観をくみ取り、その人らしさを引き立てる一品を提案する。競技で培った周囲への配慮や学ば姿勢が、接客や自身の成長にも生きています。「必要なのは商品知識だけでなく、この人に任せたいと思っていただけ信頼関係を築くことです。商品を購入いただけたときは、私を信頼してくださった証だと感じています」と話す齋藤さん。競技生活と並行して資格を取得するなど、日々の努力を欠かしません。入社2年目ながら、今は齋藤さんを頼りに来店するお客さまも増えていっているそうです。

リンクではゴールを狙い、氷上を自在に駆け回るアイスホッケー選手、店頭ではショーケース越しに顧客にじっくりと寄り添う販売員。二つの舞台でそれぞれ一流を目指す齋藤さんは、これからも多くの人に輝きを届けます。



▲9/20(日) 邦和みなとスポーツ&カルチャーでホーム開幕戦があります

メディアス体育館おおぶで開催した「木育キャラバンinおおぶ」で、木のおもちゃで楽しむ親子の様子です。木特有の木目・手触り・重さ・音・香りなどを五感で感じながら想像力を膨らませ、思い思いに遊ぶ姿が見られました。

